

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail kosaiji@hotmail.co.jp

十一月五日(木)・六日(金) 報恩講をお勤めします

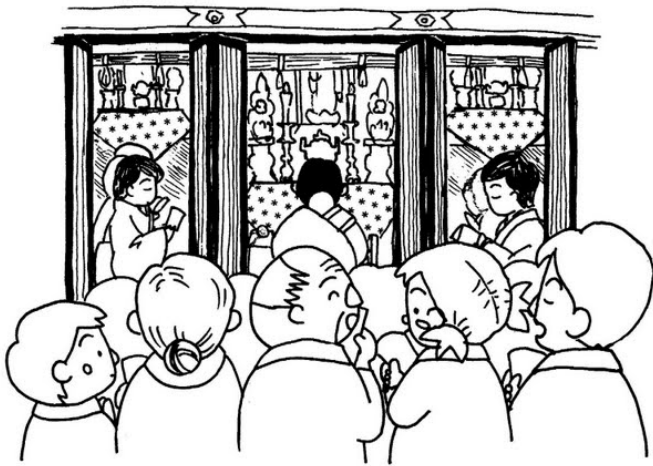
秋冷の心地よい季節となりましたが、当寺におきましてもまた報恩講が近づいてまいりました。

日時は例年のごとく十一月五日(木)・六日(金)、両日ともに午前九時半、午後二時からの計四座をお勤めいたします。お勤めの後は、伏木組龍善寺の山名一徳師にご法話をたまわります。

お昼には、婦人会の方々が作ってくださったお齋(おとき)をいただきます。お齋とは食事のことで精進料理です。このお齋も、最近ではお弁当を外注せざるを得ないというお寺が多くなっているそうです。毎年おいしいお齋をこしらえてくださる婦人

会の方々には大変感謝しております。普段は滅多に食べることのないお齋、参拝なさった際には是非召し上がってください。頬が落ちること間違いなしです。

また初日の夕方からは、子供報恩講、仏教婦人会報恩講が勤まります。どなた様



もご自由に参拝なさってください。

この報恩講という行事は浄土真宗では一年の内が一番大事な法要です。というのは浄土真宗を開かれた親鸞聖人を偲んでお勤めする法要だからです。

私たちは、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方々が心から慕われたのが親鸞聖人でした。「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われているのが先祖の方々なのでした。時代を越えて先祖の方々が仏法を護つてこられたご苦労、そして私たちに向けられた願いを思うとき、親鸞聖人、そしてその「み教え」の大切さが益々自分の身に感じられるのではないのでしょうか？

写真下 熊皮の御影



金沢にて 本願寺展開催中

親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けての記念事業として、二〇〇七年より全国六都市で本願寺展を開催しております。福岡県の九州国立博物館より始まったこの展覧会も、ついに第五都市目の金沢市にやってきました。金沢では本年十一月三日(火・祝)まで、場所は石川県歴史博物館にて開催いたします。

おります。次回最終開催都市は北海道札幌市ですので、地元で開催されているこの機会に是非ご覧になっていただきたいと思えます。

展示物は、本願寺所蔵の国宝五件、重要文化財二十七件を含む約一五〇件となっております。親鸞聖人の肖像(御影)や絵巻物、浄土真宗の教えを記した『教行信証』等の典籍類をはじめ、歴代門主のものから、本願寺書院の障壁画まで、実に様々なものが公開されております。

親鸞聖人と結婚

みんなで行こう！ 本願寺展

この本願寺展、普段は公開されることのない本願寺の至宝が多数展示されています。けれども金沢まではなかなか・・・という方おられませんか？

そこで、本願寺展団体参拝バス(60名乗り)を出すことになりました！！みんなで気軽に行きましょう♪

- 日時 10月22日(木)
- 日程 8:50 高岡市内島 教願寺 集合
- 9:00 出発 ~ 10:00 到着
- 12:00 昼食(兼六園内奇観亭)
- 13:00 帰路 ~ 14:00 教願寺 帰着
- 費用 4000円(チケット料・昼食代・バス代込)
- 申し込み期限 10月20日(火)まで
- 連絡先 広濟寺(TEL・FAX 0766-31-0096)

された恵信尼さまのお手紙も展示されており、親鸞聖人のみ教えがはるか昔から実生活の中で生きていたことが実感されます。

入館料 当日 一〇〇〇円
前売 九〇〇円
※高校生以下は無料、大学生は一般料金より二

〇〇円引です
尚、この本願寺展の前売り券を広濟寺にても販売しております。料金は一般前売料金より安く、八〇〇円となっておりますので是非この機会に本願寺展、見に行ってみてはいかがでしょうか。

広濟寺門徒総代のご紹介

当広濟寺では、門徒総代(門徒の代表)を三名の方々にしていただいております。今年八月には、広地功七さん(駒方)、長瀬清八さん(宝来町)、高嶋一正さん(醍醐)の三名に、引き続き門徒総代の役を引き受けていただくこととなりました。これまでも、蓮如上人五百回遠忌法要をはじめとした様々な活動にご尽力いただいております。そしてこれからも、仏様のみ教えを伝えていくため、門徒の皆様のご協力の下、共々に精一杯活動していきたいと思っております。



広濟寺寺報創刊によせて

広濟寺門徒総代
広地 功七

日頃、広濟寺門信徒の皆様方には多大のご協力を戴いております。誠に有難うございます。

さてこの度、七月に寺報第一号が発刊されました。今回は第二号となり、以後年間数回の発行が予定されております。

では、寺報の役割を考えて見ますと、一つは、私達門信徒の「心の依り所」「念仏の道場」としての広濟寺、また五百五十余年前、初代住職慶栄師がこの地に福田山広濟

寺の寺号を賜って以来護持されて来たこのお寺、今後もしっかり護持し発展させ、そうして永く繁栄を願うていかなくはなりません。そのために寺報はその役割を果すことが多くあると思っております。

次に「皆さんのお寺です。

老若男女を問わず揃って聴聞いたしましょう」の呼びかけに応えてここ数年の永代祠堂経法要・黎明講座・報恩講等の大きな行事の参加人数は増加の傾向にあり、喜ばしいことではあります。欲を云えば年令層の厚さを増すことが望まれるわけです。ここでも寺報の果たす役割があると思っております。

寺報の内容として例えば仏教・仏事に関する解説、人生指針に役立つ事柄、各地区との情報交換、お互いの交流

ななもあみだあんぶらー



を図れるもの等が考えられます。

要は寺報を楽しみに待ち家族全員が読み、団らんの話題になったらこれ以上言うことも語ることも無いと思っております。

夏

休みになると、広濟寺の境内にはラジオ体操をしに子供たちが集まってきました。

六時近くに来て、ラジオ体操の始まる六時半までは夏休みの宿題に励み(?)、体操が終わった後は本堂でお経をお勤めします。お経をお勤めするのは初めてという一年生も、みんなに教えてもらいながら夏休み最後には随分上手にお勤めできるようにになりました。

お経をお勤めしてからは今度は本堂のお掃除です。一生懸命に水拭きしてくれる本堂は、一年の内でのこの時期が一番綺麗かも。

この夏休みの広濟寺でのラジオ体操、なんと五十年も



※写真左 当寺門前にて

前から続いているのだとか。今では小学生の頃にここでお経に親しんだという方が村中にたくさんおられます。子供たちだからこそ、素直に受けとり、一生懸命になれる。見ていてこちらも学ばれます。また来年の夏が楽しみです。

お知らせ

二〇〇九年

報恩講

十一月五日(木)・六日(金)

午前九時半より

午後二時より

御講師

伏木組 龍善寺

山名 一徳師

子供報恩講

十一月五日(木)

午後五時より

仏教婦人会報恩講

十一月五日(木)

午後七時より

御講師

新湊組 覚円寺

青木 哲静師

編集後記

今号は第二号にして紙面の大幅刷新を試みました。前号より文字が少しばかり大きくなったこと、お気づきになりましたか？読みやすくなつていれば幸いです。

また今号は、お伝えするこ
とが多く、ページ数も倍になりました。ですがまだまだ書き足りないことも多く、今後も様々に工夫していきたいと思ひます。

ところで、世の中では「政権交代」という言葉が現実のものとなりましたね。国民の「今のままではダメだ」という思いの表れでしょうか。私自身もまた、「自分も何かを変えていかなければ」という思いをもつたことでした。